

## 令和3年度 さいたま市立木崎中学校 学校関係者評価書

さいたま市立木崎中学校

学校関係者評価委員長 山崎 徳平



### 1 学校関係者評価の実施体制

#### (1) 構成人数 11名

青少年育成会代表3名、公民館長3名、小学校長1名、主任児童委員2名、PTA（会長・副会長）2名

#### (2) 実施回数 3回

令和3年 7月 1日（木）

令和3年10月21日（木）

令和4年 2月21日（月）

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・コロナ禍であるが、子どもたちには、あと一步を踏み出す勇気や踏み込む力をつけさせたい。
- ・木崎中生は、素直な心をもっている生徒が多いが、失敗を次に活かしていく力を身につけさせたい。
- ・勉強だけが全てではないことから、生徒同士の人間関係づくりや互いに注意ができて自分の意見を相手にはっきり伝えられる等、何年経っても何歳になっても続く人間関係を築いてほしい。
- ・元気なあいさつができる生徒が少ないこと、あいさつができる子とできない子がいることからあいさつや礼儀など家庭での教育を学校任せにはいけないが、家庭、地域、学校で連携してあいさつを励行していくことが大切と考える。
- ・人に感謝する心をもった人になってほしい。そして「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れない、当たり前だと思わない生徒を育てていきたい。
- ・生徒主体の生徒会の活動の場を広げ、自分たちで考え作り上げる学校行事の推進を図っていききたい。
- ・1日で家族の誰かが行ってらっしゃい、お帰りのさいと言って子どもを送り、迎える家庭を目指していきたい。
- ・家庭内での会話を1日、5、10分でももてるような意識が必要でコミュニケーションを大切にしてほしい。
- ・朝ごはん、晩ごはんを家族一緒に食べるよう努力し、一日の中で必ず一食は家族一緒に食べるよう心掛けることで親子のコミュニケーションを大切にしてほしい。
- ・最近では地域の人との関わりが少なくなってきたが状況を見ながら地域の行事に積極的に参加し家族や親子で参加してもらいたい。
- ・学校、家庭で勉強、日常生活の状況等を双方でチェック項目を表にして一週間毎に連絡帳に実行したかどうかチェックを行いお互いに情報交換すると連携がより深まるのではないかと考える。
- ・ボランティア活動を通して地域の方と知り合う機会が増えればあいさつしやすくなるのではないかと考える。
- ・小学校の行事の手伝いや地域の清掃活動やイベントは、人数制限、感染対策を徹底してできる限り実施できるよう期待したい。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・来年度は、あいさつ運動をさらに生徒主体に取り組み、子どもたちが自己存在感を実感できる取組にしていく。
- ・生徒の取組が保護者や地域の方へ見えるよう情報発信についても学校だより、安心メール、学校ホームページ等を活用し充実させていく。
- ・来年度は、地域に貢献する木崎中生を育成するために、生徒による地域清掃やボランティア活動、避難所運営訓練への参加等、積極的に取り組んでいく。
- ・生徒会を主体とした生徒による活動を昨年度よりさらに拡大し、SDGsの取組やエブリデイ・スマイルキャンペーン等、PTAとコラボした取り組みを積極的に行っていく。

さいたま市立木崎中学校長

稲田 正平

